

くすりの適正使用協議会
「第2回 くすり川柳コンテスト」入賞作品決定！

子供部門： 最優秀賞 「一つぶが 大きく見えた あのころは」
優秀賞 「薬ギライ なおすクスリは ないかしら」
一般部門： 最優秀賞 「薬箱 拡大鏡が 巾きかせ」
優秀賞 「名刺より 薬見せ合う クラス会」

くすりの適正使用協議会（会長：大橋勇郎）は、薬を正しく使うことの大切さの普及・啓発を推進することを目的とし、「第2回 くすり川柳コンテスト」を実施しました。

全国の小学生以上の方々を対象に募集したところ、昨年の2,425句を大幅に上回る9,743句の作品が寄せられました。その後、第1次・第2次選考を経て、入賞作品20句が選定されました。（募集期間 2010年10月5日～12月15日）

高齢とともに増える薬の種類、外出時の薬の携帯や飲み忘れをしていないかを確認し合う家族間のコミュニケーション、苦い薬を子供に飲ませる母親の工夫、闘病の中で命をつなぐ薬への感謝・希望など、今年も日常生活における薬との関わりを様々な視点から詠った感性豊かな川柳が集まりました。特別審査員として、各部門の最優秀賞及び優秀賞を選定したコピーライターの仲畑貴志氏は、今年の応募作品の傾向について、次のように述べています。

「自分を振り返ってみても思いあたるように、薬というと、子供の頃には嫌なもの。しかし、子供は必要であることをちゃんとわかっています。子供部門では、薬とうまく付き合いおうと努力している発想の句が多く見られました。一般部門では、ますます進む高齢化という現実から書かれた句が目立っていました。」

なお、今回の入賞作品はホームページ（http://www.rad-ar.or.jp/02/07_event/senryu/）でもご覧いただくことができます。

くすりの適正使用協議会では、多くの皆様からご応募いただいた「くすり川柳」を通して、日常生活における人々の薬との接し方や、その時々への思いがどのようなものであるかを知り、今後も参考にしながら、様々な形で、薬の正しい使い方の普及・啓発を推進してまいります。

※このニュースリリースは、重工業研究会、本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、文部科学記者会に配布しております。

【本リリースに関するお問合せ先】

くすりの適正使用協議会事務局
（株式会社ジェイ・ピーアール内） 遠藤・山田
TEL/03-3403-1745 FAX/03-3403-1753 E-mail:healthcare@k-jpr.com

- 入賞作品 -

【子供部門】

最優秀賞： 「一つぶが 大きく見えた あのころは」 東京都 宮坂 夏実さん(15歳)

審査員 仲畑貴志氏 講評

飲むのに苦労した、そのぶんだけ、一つぶが大きく見えた。それも、“あのころは”と、今ではもう過去のこと。薬と自分との関係だけでなく、成長も表現されている秀逸句です。

優秀賞： 「薬ギライ なおすクスリは ないかしら」 新潟県 田中 蘭さん(10歳)

審査員 仲畑貴志氏 講評

本来、体の不調を直してくれる薬。でも“薬ギライ”の彼女は、それを治してくれる薬があったらいいなど考えた、その発想の連鎖が良いと思いました。

佳作賞： 「よかったね 薬がきいて 笑顔でる」 兵庫県 植地 真子さん(9歳)
「よくなれと まほうをとなくて くすりのむ」 福島県 天野 夏星さん(8歳)
「水戸黄門 薬かかえて ひかえおろう」 大阪府 ハンター アントリュウさん(12歳)

RAD-AR*賞： 「せきどめを おいしくしてよ くすりやさん」 兵庫県 藤田 玄さん(9歳)
「なおすため にながくてもものむ 一年生」 広島県 西 紫月さん(7歳)
「ひとりでは ちよっと心配 聞いてから」 島根県 角森 多久哉さん(12歳)
「おくすりを 正しくつかって 健康に」 山形県 齋藤 三友紀さん(14歳)
「風邪くすり 飲めず飲めずで 一時間」 埼玉県 松苗 新奈さん(13歳)

【一般部門】

最優秀賞： 「薬箱 拡大鏡が 巾きかせ」 茨城県 石田 美佐江さん(53歳)

審査員 仲畑貴志氏 講評

使用上の注意は細かい文字で書かれていることが多い。正しく付き合うには、ちゃんと読まなければいけない。だから、薬箱には拡大鏡が入っているのです。

優秀賞： 「名刺より 薬見せ合う クラス会」 神奈川県 石川 照夫さん(64歳)

審査員 仲畑貴志氏 講評

クラス会も回を重ねるほど、みんな平等に歳を取っていく。かつてはビジネスの話などが中心だったのに、今では体調や薬の話が多くなった現実を表した句です。

佳作賞： 「祖父と祖母 薬飲んだ？が 合(愛)言葉」 北海道 高松 優花さん(27歳)
「年々と 薬とシワが 増えていく」 東京都 中田 さゆりさん(40歳)
「飲み忘れ 誰かが気づく 家族愛」 宮城県 相沢 浩美さん(27歳)

RAD-AR*賞： 「必需品 娘ケータイ 父くすり」 東京都 新保 喜久男さん(54歳)
「良きくすり 正しく服めば 良き効果」 大阪府 天野 誠一朗さん(76歳)
「クスリ飲み 命あづける あの世まで」 宮城県 伊藤 元雄さん(55歳)
「いけないよ 効かないからと 多服用」 静岡県 鈴木 涼介さん(19歳)
「くすりとは 苦をすり抜けると 母が言う」 大分県 渡辺 浩子さん(48歳)

* RAD-AR: Risk/Benefit Assessment of Drugs-Analysis and Response

RAD-ARとは、くすりの適正使用協議会の活動を表現したもので、医薬品のリスク(好ましくない作用など)とベネフィット(効能・効果や経済的便益など)を科学的に評価・検証し、その結果を社会に示すことで医薬品の適正使用を推進し、患者さんに貢献する一連の活動のことです。

◆ 審査員プロフィール

コピーライター 仲畑貴志 (なかはた たかし) 氏

1947年、京都市生まれ。コピーライター。カンヌ国際広告映画祭金賞、東京ADC賞など多数受賞。東京コピーライターズクラブ会長であり、日本広告界を代表するコピーライター。代表作は、「おしりだって、洗ってほしい」(TOTO)、「目の付けどころが、シャープでしょ」(シャープ)、「ココロも満タンに」(コスモ石油)、「反省だけなら猿でもできる。」(チオピタドリンク)など。新聞社の人気連載「仲畑流万能川柳」では選者を務める。

◆ 第2回 くすり川柳コンテスト概要

- 目的: 薬を正しく使うことの大切さの普及・啓発を推進すること
- テーマ: テーマは「薬」。日常生活の中で薬について感じていること、薬で助かった経験や疑問に思うことなど、薬にまつわる出来事や思い。
※病気や傷の治療に用いる「薬」をテーマとする。
- 応募条件: 全国の小学生以上の方
・子供部門(中学生以下) ・一般部門(高校生以上)
- 応募期間: 2010年10月5日～2010年12月15日
- 総応募数: ・子供部門:670句 ・一般部門:9,073句
- 選考方法: 選考委員(コピーライター 仲畑貴志氏、くすりの適正使用協議会)による審査
- その他:
 - ・入賞作品は、くすりの適正使用協議会ホームページに掲載。
 - ・賞品:各部門より、最優秀賞1名・金1万円、優秀賞1名・金5千円、佳作賞3名・金3千円、RAD-AR賞5名・QUOカード(1千円)を謹呈。
 - ・入賞されなかった方の中から、抽選で100名様にくすりの豆辞典「見つけよう! くすりのホント」を1部謹呈。

◆ くすりの適正使用協議会について

くすりの適正使用協議会は、「医薬品の本来の姿を社会に提示して、医薬品の正しい使い方を促進し、患者さんの治療や、QOLに貢献する」を理念とし、1989年、研究開発指向型製薬企業11社により設立されました(現在会員数22社、個人会員2名)。設立当初より、「医薬品のベネフィットとリスクを科学的、客観的に評価、検証する手法である薬剤疫学の紹介、啓発」及び、「医薬品の適正使用に資する医療担当者と患者さんのコミュニケーションの促進」を2大事業として活動しています。近年では、基本的な医薬品情報を若年者が患者・消費者になる前に獲得することが、将来、医薬品の適正使用に役立つと考え、主として小学生高学年を対象に「くすり教育」の普及活動を指導者に向けて展開しています。

くすりの適正使用協議会ホームページ : <http://www.rad-ar.or.jp/>

くすり教育ホームページ : <http://www.rad-are.com/>

<会員企業>

アステラス製薬株式会社/アストラゼネカ株式会社/エーザイ株式会社/MSD株式会社/大塚製薬株式会社/キッセイ薬品工業株式会社/協和発酵キリン株式会社/興和株式会社/サノフィ・アベンティス株式会社/塩野義製薬株式会社/第一三共株式会社/大正製薬株式会社/大日本住友製薬株式会社/武田薬品工業株式会社/田辺三菱製薬株式会社/中外製薬株式会社/日本イーライリリー株式会社/日本新薬株式会社/ノバルティス ファーマ株式会社/ノボ ノルディスクファーマ株式会社/ファイザー株式会社/明治製菓株式会社 以上22社(五十音順)